

イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年11月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、週末10/7のWTI原油は、先週比13.15ドル高の92.64ドルとなりました。OPECプラスは5日、世界的な景気減退(リセッション)懸念を背景に原油価格が下落基調にあることから、11月の原油生産量を日量200万バレル削減すると決定。減産規模は2020年以來の大きさを、供給懸念から原油が買われました。欧州連合(EU)は同日、ウクライナ侵攻を続けるロシアに対する追加制裁として同国産石油価格に上限を設けることで合意。これを受けて、ロシアのノバク副首相は生産量を減らす可能性を示唆しました。今後の需給引き締まり観測が一層強まり、相場を支えました。

●第2週、週末10/14のWTI原油は、先週比7.03ドル安の85.61ドルとなりました。高インフレ、主要中央銀行による金融引き締めに加え、地政学的リスクや中国の新型コロナウイルス感染再拡大をめぐる懸念が重しとなり世界的なリセッション(景気後退)による需要鈍化観測が広がり原油は、売られました。

●第3週、週末10/21のWTI原油は、先週比0.56ドル安の85.05ドルとなりました。米紙ウォール・ストリート・ジャーナル(電子版)は21日、米連邦準備制度理事(FRB)が12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げ幅縮小を巡り議論する可能性があるとの報道。これを受けて、米長期金利の上昇が一服するとともに対主要通貨でドルが下落。ドル建て商品である石油は割安感から買われました。前日に中国が新型コロナウイルス防疫対策緩和を検討していることと報じられたことも同国の需要回復期待につながり、エネルギー商品の買いを支えました。

●第4週、週末10/28のWTI原油は、先週比2.85ドル高の87.90ドルとなりました。中国国家衛生健康委員会の28日の発表によると、中国本土で27日に報告された新型コロナウイルスの新規感染者数は、4日連続で1000人を超えました。前週には同国内で感染拡大防止策の緩和が検討されていると報じられエネルギー需要の回復が期待されていましたがムードが一転。中国の景気先行き懸念が台頭し、需要減退につながるとの連想から売りが優勢となりました。また米商務省が同日発表した9月の個人消費支出(PCE)物価指数は、前年同月比6.2%上昇と米連邦準備制度理事会(FRB)が目標とする2%を大きく上回りました。FRBが大幅利上げを継続するとの懸念が高まり米長期金利が上昇。これを受けて対ユーロでのドル高が進みドル建て商品の原油の下押し材料となりました。

	10月平均	WTI原油	87.03ドル	前月比	3.23	為替 1ドル	148.19円	前月差	4.10円
--	-------	-------	---------	-----	------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
10/1~10/5	35.7	-1.0	-1.0
10/6~10/12	33.8	-2.5	-2.5
10/13~10/19	36.8	+5.5	+5.5
10/20~10/26	37.8	+0.5	+0.5
10/27~10/31	36.4	-1.5	-1.5

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2022年7-9月C重油決定価格	114,000	120,120	(114,000(メニュー)+6,120(プレミアム))
2022年10-12月C重油決定価格	102,770	110,850	(102,770(メニュー)+8,080(プレミアム))	
2022年10-12月C重油決定価格			(メニュー)+ (プレミアム)	
決定価格7-9月比				

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	A重油	
2022年7-9月C重油決定価格	125,000	117,400
2022年10-12月C重油決定価格	115,750	
2022年10-12月C重油決定価格		
決定価格7-9月比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	22/9	9桁速報	97.511	110.79	139.93	1,901
	22/10	最終予測	92.564	101.65	144.77	-4,947
	22/11	展望	88.150	101.10	140.00	-4,414
	22/12	展望	85.023	100.13	135.00	-3,127

【次世代エネルギー】< e-fuel(合成燃料)とは何か? トヨタも取り組む「CO2を排出しても炭素」の作り方 >

e-fuel(イーフェューエル: 合成燃料)とは、CO2と、再生可能エネルギーによる水の電解(electric)から得られたH2を用いた合成燃料で、ガソリンや軽油などの代わりとして期待されている炭素燃料である。e-fuelは合成燃料の一種となるが、その合成燃料はCO2とH2を合成して製造される燃料であり、ガソリン、軽油、灯油などの混合物を含む「人工的な原油」のことを言う。原料となるCO2は、現状では発電所や工場などから排出されたものを利用することとなるが、将来的には「DAC(ダイレクトエアキャプチャー)技術」を使って大気中のCO2を直接分離・回収したものを利用することが想定されている。しかしe-fuelは、燃焼時に排出されるCO2が通常ガソリンを使った場合と同じである。だが、製造時にCO2を資源として利用するため、CO2の排出量と吸収量を差し引いて全体としての排出量はゼロとなる。このためカーボンニュートラルである「炭素燃料」と言われている。合成燃料の製造は、600度以上の高温で触媒を用いてCO2をCOに転換させ(逆シフト反応)、生成したCOとH2をFT合成反応(フィッシャー・トロプシュ合成反応)により行う。ほかにも、CO2とH2を合成したメタノールやメタンなども合成燃料と呼ばれる。合成燃料がe-fuelと言われるためのポイントは「再生可能エネルギー由来のH2を使う」こと。化石燃料由来のH2を使った場合、製造過程で発生したCO2を分離・貯留した後、別途、CO2と合成させるため、製造プロセスが非効率になる。カーボンニュートラルな燃料として、「バイオ燃料」がすでに商用化されているが、e-fuelとは何が違うのか。バイオ燃料は、サトウキビなどの作物や生ごみなどの廃棄物といった、バイオマス(生物資源)からつくられたバイオエタノールやバイオディーゼルなどのことを言う。

米国やブラジルなどで普及している一方、日本国内においては原料不足や製造コストなどの課題もあり、バイオ燃料だけで燃料問題のすべてを解決できるわけではない。対して、e-fuelなどの合成燃料は原料がCO2とH2で、工業的に生産できる特徴がある。e-fuelがバイオ燃料に取って代わるというよりは、両者の特長を生かして化石燃料から炭素燃料へのシフトを進めることが望ましい。

出典 ①<https://www.sbbt.jp/article/cont1/95962> ②<https://www.itmedia.co.jp/smartjapan/articles/2209/22/news065.html>

【11月価格変動要因】

- 需要: 北半球の冬場を目前に控えて中間留分を中心に需要の増加が見込まれる。現状の欧州天然ガス在庫は潤沢ではあるが、ノルドストリーム停止の影響を今後見極めなければいけない。想定以上にガス在庫が減少すれば代替燃料として原油需要が増す恐れもあるので欧州の天候には特に注意が必要。
- 供給: サウジアラビアは、米国の増産要請を断固拒否している。ロシアも来年の生産量は、前年比7~8%減少すると見られており供給はかなりタイト。当の米国も生産量はコロナ前ピークの1割減に留まっておりいずれにしても供給不足感否めない。
- 在庫: 米国の原油在庫は、5年平均にほぼ到達し一時期ほどのタイト感は見られない。しかし中間留分は、5年で最低水準になっている。冬場に向けて製油所の稼働が追いつかず製品高を招く恐れがある。またSPRIは、1984年以來の低水準で商業在庫を下回るレベルまで減少しており一層の放出は困難と見られる。
- リスク資産: 11月12日のFOMCでは、政策金利は、0.75%引き上げられると見られている。一方で米国の2年債や10年債の利回りはそれぞれ4.5%と4%近くでもみあいになっている。米債利回りの頭打感に株価は持ち直しを見ている。しかしいずれの金利ももう一段上昇すると見られておりリスク資産全般は、再度売られ下落すると考える方が妥当。
- テクニカル: プレントが95ドルの節目に上値を抑えられていたが10月26日に上抜けたことでレンジが引き上げられた。次の目線は当然100ドルになるが、ひとまずは93ドルのサポートラインまでの調整売りを予測。調整売りが一巡した後ではあるが、100ドル到達は時間の問題か。
- 地政学: ロシアは、ウクライナ東南部の4州を併合。引き続き核兵器使用の可能性も残されている。また中国も習近平が異例の3期目に突入し独裁色が一層強めている。台湾に関連したヘッドラインが現実味を帯びている。

【11月価格変動要因】 (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	105	100
Average	95	90
Low	90	85

日付	国	11月経済指標カレンダー	日付	国	11月経済指標カレンダー
1	米	10月ISM製造業景況指数	15	欧	7-9月四半期域内総生産(GDP、改定値)
2	米	10月ADP雇用統計	16	米	10月小売売上高
2	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表	17	欧	10月消費者物価指数(HICP、改定値)
2	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見	23	米	10月新築住宅販売件数
3	米	10月ISM非製造業景況指数	23	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
4	米	10月失業率	30	欧	11月消費者物価指数(HICP、速報値)
4	米	10月非農業部門雇用者数変化	30	米	11月ADP雇用統計
4	米	10月平均時給	30	米	7-9月四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
10	米	10月消費者物価指数(CPI)			